

講演会「くさってつながる命の環」
 観察会「お尻で見る葉っぱ図鑑」

講師・糞土師・伊沢正名



講演会「くさってつながる命の環」

とき 2011年6月11日(土) PM1:30-3:30
 ところ 只見町青少年旅行村・いこいの森内古民家

観察会「お尻で見る葉っぱ図鑑」

とき 2011年6月12日(日) AM9:30-11:30
 ところ 只見町青少年旅行村・古民家前スタート

参加料：500円(入材料込み・6/11-12共通)

主催：只見の自然に学ぶ会

▲ツヤマグソタケ *Anellaria anthurum*
 ヒトヨタケ科ツンガサタケ属。春から秋、
 牧場や畑地などの明るいところで、馬や
 牛などの糞上に生える。(撮影・伊沢正名)

[お問合せ] 只見の自然に学ぶ会 事務局 TEL.0241-82-3242 (渡部方)
<http://www.fukosya.com/manabu.htm>

只見町青少年旅行村・TEL.0241-82-2432 <http://www2.ocn.ne.jp/~tadami/>

ひと

トイレでせずに10年

伊沢正名 さん(60)



朝日新聞 2010年5月24日

蜂に刺され、蚊に刺され、風雨にさらされ、な外へ。「信念の野ぐそ」を始めて36年。毎日野外という連続記録は今年で10年になる。約40年前、地元・茨城でし尿処理施設建設に反対する運動が起きた。「近所は嫌なんて身勝手」と怒り、処理に大量の水や熱を使うことも知った。「せめて自分のものには責任を持つ」と思い立った。

庭や裏山で穴を掘って埋め戻し、葉っぱでふく。「小」は草木を枯らすので早々に断念した。街に出る時は排泄のタイミングをずらし、旅先では、「候補地」を下調べ。原生林や沢は避け、同じ場所には1年以上しない。場所や頻度を記録し、土に還る時間も追跡調査した。「自然の循環に自らを組み込もう」と説く。

「世間一般の常識人」である妻直子さん(61)は「思っただけでなく説得力を」と原稿や講演に目を光らせる。「世の中とのバランスをとって批判する彼女がいてこそ」

原点は、山で見たキノコだ。「動物の死骸にひっそりと生を受ける。死や腐敗こそが、命を次につないでいると教えてくれた」

キノコの生き方にはれ込み、写真家に、3千種類以上のキノコ、コケ、菌類を撮影し、出した図鑑類は30冊以上。長年の写真家の肩書を捨て、いまは、「糞土師」を名乗る。

「口に入れる物には神経質な時代。出す方にもっと目を向けたい」

選び抜いた葉っぱと小さなシャベルを手に、今日も外へ。

文・宮地ゆう 写真・古川透

伊沢正名(いざわ・まさな)

1950年、茨城県生まれ。20歳のときに自然保護運動を始めたのを機に、独学で撮影術を身につけ、自然写真の道に入る。また、本来土に還るべきウンコが自然のサイクルから排除されていることに義憤を感じ、1974年から意識的に野糞をはじめ、紙を使わず水と葉っぱを使用する「伊沢流インド式野糞法」を確立した。1999年には、野糞率100%を達成。その後、2003年に1千日、2005年に2千日、2008年に3千日、連続野糞を達成。延べ回数は1万回を超え、21世紀になってからは一度もトイレで排便をしていない。2007年からは、野糞跡のウンコが完全に土に還るまでの過程を振り返って詳細に調査する「野糞跡掘り返し調査」を実施した。